

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3691700011		
法人名	社会福祉法人 博友会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	徳島県吉野川市山川町祇園51番地2		
自己評価作成日	平成22年9月21日	評価結果市町村受理日	平成22年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3691700011&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3691700011&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

全職員が、質の高いサービスを均一に提供し、家族に安心して任せてもらえるように取り組んでいる。  
家庭と同じような食事を、利用者と職員がともに作っている。また、季節に応じた食事としている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、市内を見渡せる小高い丘の中腹に位置している。周囲には他の介護サービス事業所が隣接し、医療や災害対策等の連携体制が整っている。事業所内は、天然杉をふんだんに使い、木の香りと暖かさにふれられる造りになっている。縁側には、菜園で育てられた唐辛子や利用者とともに皮をむいた柿が干され、家庭的な環境の中で生活を送っている。管理者や職員は、事業所内外を問わず、いろいろな研修会や勉強会に参加している。また、法人全体でストレスマネジメントに取り組み、職員一人ひとりのメンタルヘルスを管理するなど、日ごろのケアサービスの質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭と同じような環境の中で共同生活を送れるように支援している。利用者一人ひとりの自立と心身機能の維持を図りながら、安心して生活できるように努めている。	地域密着型サービスの意義や役割をふまえた事業所独自の理念を掲げ、朝のミーティングや勉強会の中で話し合っ共有している。利用者や家族にも、理念を伝え、思いを明確にして日ごろのケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域の清掃活動などに参加し、地元の人々と交流を図っている。	利用者は、地域や併設事業所の主催する行事に参加している。職員は、地域の清掃活動や消防団活動などに参加して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への接し方を記載した広報誌等を配付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族にアンケートを実施している。集計結果は運営推進会議で報告している。出された意見は検討し、サービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、利用者や家族、地域住民、行政、管理者、職員が参加し、運営推進会議を開催している。防災や感染症、外部評価結果等を協議している。年1回実施する家族アンケートについても、活発に話し合い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者から介護予防教室に関する説明を受けている。	書類提出の際には、直接窓口に出向いている。年4回、吉野川市グループホーム連絡協議会を開催し、意見交換や事例検討、ケアプラン作成等、市担当者とともに課題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に、身体拘束について話し合っている。職員間で正しく理解しケアに活かしている。	日ごろのミーティングや研修の中で話し合い、取り組んでいる。運営推進会議で身体拘束の内容とその弊害について説明し、自由な暮らしを支援するための理解促進に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や身体拘束防止に関する研修会を事業所内で開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、利用者や家族に説明している。納得を得たうえで、署名・捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見をお聞きしたり、年1回のアンケート調査を実施している。この時に出た意見等については職員間で検討している。また運営推進会議に参加していただきご意見等を反映させる機会を設けている。	年1回、法人内独自の利用者・家族アンケートを実施している。結果内容や意見について職員会議で話し合い、運営推進会議で参加者からアドバイスをもらってサービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、部署ごとに行うミーティングや毎日のミーティング、主務者会で職員から意見を聞いている。	日ごろの業務の中で職員の意見を引き出しやすい関係が構築されている。2か月に1回、理事長参加による部署ごとのミーティングを開催し、意見や提案を聞いて働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己申告書を職員に提出してもらい、出された意見を運営に反映している。また、職員自らが短期・長期目標を設定し、達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し、職員を段階的に育成している。また、法人全体で行う研修会への参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	1階ユニット		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者や家族と面会を行い、家庭環境や生活状況を聞いている。話し合いの中で、事業所での暮らし方について同意を得ている。また、話し合いの内容を記録し保管している。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来てもらい、ともに過ごす時間を設けている。また、利用者や家族と面接を行うようにしている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の際にお伺いし、担当の介護支援専門員とも相談している。必要に応じて、主治医にも相談している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるように努めている。調理や清掃等の家事は、職員とともに行うようにしている。また、日ごろの会話の中から、昔のことを教えていただくこともある。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族に話を聞いている。日ごろから、家族の希望を聞いて、利用者をともに支えられるように努めている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望等に応じて、外出時に立ち寄り家や近くの通ったりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	入居前の面接や同意書によって、利用者のこれまでの生活や人間関係の把握に努めている。外出時には、馴染みの場所の近くを通ったり立ち寄る等の支援をしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろから、職員は、利用者同士の関係に気を配っている。必要に応じて、利用者の輪の中に入り、一緒にいられるような声かけを行っている。				



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した方については、介護支援専門員に情報提供を行い、必要なサービスや情報を得られるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成する際に、本人の思いや意向も含め検討している。利用者や家族の意見を計画に反映するように努めている。	本人や家族の希望や意向の把握に努めている。担当者制を取ることで一人ひとりの日々の生活の中から思いをくみ取り、支援に向けた話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票に情報を記載している。その情報は、職員間で回覧し周知を徹底している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際に、ケース記録や生活記録表を参考にしている。家族からも意見を聞いて、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決めている。介護サービス計画書の作成時、家族に要望等を聞いてカンファレンスを実施している。会議には、計画作成担当者や担当介護職員、介護支援専門員が参加している。必要に応じて、主治医に相談することもある。	担当者や計画作成者による毎月の個別モニタリングや3か月ごとのカンファレンスを実施している。本人や家族の意見を取り入れてよりよく暮らすための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は、生活記録表に記載している。記録内容はサービス計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊時などは、なるべく本人に付き添って散歩をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同での防災訓練等を実施している。また、近隣の小学校の運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関で定期的な訪問診療を行っている。受診結果を連絡帳に記載し、家族との情報共有を図っている。家族の希望により、他の医療機関の受診も支援している。	定期的な訪問診療を受け、利用者や家族が納得した医療が受けられるよう支援している。受診状況を家族と職員が共有し、体調変化の際には希望の医療機関を受診できるよう連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅介護支援事業所の看護職員に相談している。協力医療機関の主治医が訪問診療に訪れた際にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的に様子をお聞きし、主治医や看護職員に経過を聞きながら、退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身状態に変化が見受けられた際の対応方針を、契約時等に家族に説明し同意を得ている。	契約時、「身体状況変化時の対応方針」を説明し、同意を得ている。状況変化時、家族や主治医と相談しながら対応を検討し、関係者間で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設事業所の看護職員に依頼し、緊急時の対応方法に関する研修会を開催している。必要に応じてミーティング等を開き、職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として防災に関する諸規定を設けている。年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施しており、近隣の協力体制も築いている。	消防署や併設事業所の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。運営推進会議の中で防災について話し合い、地域との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護を徹底しており、事業所内にも掲示している。また、日ごろからプライバシーの保護に努めている。	利用者一人ひとりの人格や意見を尊重し、プライバシー保護について研修や話し合いを繰り返し行っている。日ごろのケアの中で、年長者を敬う気持ちを心がけ、ていねいな言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とのコミュニケーションを図りながら対応方法を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を第一に考えて対応しているが、不十分なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと美容院へ行ったり、付き添いの支援を行っている。利用者や家族の希望に応じて、理・美容院への支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態や身体状況に応じた声かけをしている。利用者の好き嫌いを把握したうえで楽しく調理しているが、食事づくりを好まれない方もいる。	明るいオープンキッチンで調理し、下準備や下膳、テーブル拭き等、利用者の能力を活かしながら一緒に行っている。利用者と職員がともに天然木の大きなテーブルを囲み、食事や会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量の記録を行っている。食事摂取量に制限のある方には、全職員で配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や状態に応じて、布パンツを使用している。紙パンツから布パンツに変えるなど、おむつ外しに取り組んでいる。排泄方法についてのマニュアルを作成し実施している。実際にトイレで排泄が可能になった方もいる。	チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して自立に向けて支援している。身体状況やプライバシーに配慮し、さりげない声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に取り入れている。また、朝食時には、ヨーグルト等の排泄を促すような食材を提供している。排泄チェックシートにより排便の間隔を把握して主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の希望にそって実施しており、曜日や時間に制限を設けていない。	利用者の希望にそって入浴できるよう支援している。入浴を好まない方には声かけやタイミングを変えるなどして一人ひとりの意向を第一に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠の妨げにならないよう吸収力の高いパットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりごとの服薬の目的や副作用、用法の理解に努め、個別に管理している。服薬の支援時には、必ず服薬時に薬袋と利用者の顔を確認している。また、他の職員に聞こえる声で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また、本人の能力に応じて清掃や調理、ゴミ捨てなどの役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出を行っている。また、天候により外で過ごされることもある。	敷地内にある神社への散歩や地域の催しに参加している。また、家族の協力を得て、外出を支援しているが、利用者の希望にそった外出には至っていない。	運営推進会議等で議題を提案するなど、家族や地域住民、ボランティア、認知症サポーター等の協力を得ながら、利用者の思いにそった外出支援の工夫が期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金を所持することの大切さを理解しているが、使用する機会をあまり設けていない。また、入居時に、お金の管理は本人の自己責任の範囲内であることを家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により電話をかける支援を行っている。また、毎月、担当職員から家族へ状況報告の手紙を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等は手づくりのものを使用している。ホール内には、日めくりカレンダーを設置しており、利用者にめくってもらっている。採光にも配慮している。	事業所内は天然杉がふんだんに使用され、心地よい香りの暖かな造りになっている。ホール内には紅葉の生け花が生けられ、窓からは干し柿・唐辛子が見られるなど、利用者が集う居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約6畳半の畳のスペースを確保しており、思い思いに過ごしてもらっている。冬場には、こたつを設置し気軽に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等を自由に持ち込んでもらっている。自宅で使用していた物を気軽に持ち込めるようにしている。	居室には愛着のある筆筒や家電、写真などを持ち込み、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を生かせるように支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭と同じような環境の中で共同生活を送れるように支援している。利用者一人ひとりの自立と心身機能の維持を図りながら、安心して生活できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	小学校の運動会や地域の清掃活動などに参加し、地元の人々と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への接し方を記載した広報誌等を配付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族にアンケートを実施している。集計結果は運営推進会議で報告している。出された意見は検討し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者から介護予防教室に関する説明を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に、身体拘束について話し合っている。職員間で正しく理解しケアに活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や身体拘束防止に関する研修会を事業所内で開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、利用者や家族に説明している。納得を得たうえで、署名・捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご意見をお聞きしたり、年1回のアンケート調査を実施している。この時に出た意見等については職員間で検討している。また運営推進会議に参加していただきご意見等を反映させる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、部署ごとに行うミーティングや毎日のミーティング、主務者会で職員から意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己申告書を職員に提出してもらい、出された意見を運営に反映している。また、職員自らが短期・長期目標を設定し、達成度を確認しながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の年間スケジュールを作成し、職員を段階的に育成している。また、法人全体で行う研修会への参加を促している。資格取得に向け有資格者がアドバイスをを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者や家族と面会を行い、家庭環境や生活状況を聞いている。話し合いの中で、事業所での暮らし方について同意を得ている。また、話し合いの内容を記録し保管している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来てもらい、ともに過ごす時間を設けている。また、利用者や家族と面接を行うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の際にお伺いし、担当の介護支援専門員とも相談している。必要に応じて、主治医にも相談している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のリズムで生活が送れるように努めている。調理や清掃等の家事は、職員とともに行うようにしている。また、日ごろの会話の中から、昔のことを教えていただくこともある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族に話を聞いている。日ごろから、家族の希望を聞いて、利用者とともに支えられるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望等に応じて、外出時に立ち寄り家や近所を通ったりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろから、職員は、利用者同士の関係に気を配っている。必要に応じて、利用者の輪の中に入り、一緒にいられるような声かけを行っている。			



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した方については、介護支援専門員に情報提供を行い、必要なサービスや情報を得られるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成する際に、本人の思いや意向も含め検討している。利用者や家族の意見を計画に反映するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に行き、入居状況調査票に情報を記載している。その情報は、職員間で回覧し周知を徹底している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護サービス計画書を作成する際に、ケース記録や生活記録表を参考にしている。家族からも意見を聞いて、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者を決めている。介護サービス計画書の作成時、家族に要望等を聞いてカンファレンスを実施している。会議には、計画作成担当者や担当介護職員、介護支援専門員が参加している。必要に応じて、主治医に相談することもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄等の記録は、生活記録表に記載している。記録内容はサービス計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徘徊時などは、なるべく本人に付き添って散歩をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同での防災訓練等を実施している。また、近隣の小学校の運動会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関で定期的な訪問診療を行っている。受診結果を連絡帳に記載し、家族との情報共有を図っている。家族の希望により、他の医療機関の受診も支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅介護支援事業所の看護職員に相談している。協力医療機関の主治医が訪問診療に訪れた際にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関へ事業所での生活などの情報提供を行っている。定期的に様子をお聞きし、主治医や看護職員に経過を聞きながら、退院が近づけば受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身状態に変化が見受けられた際の対応方針を、契約時等に家族に説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設事業所の看護職員に依頼し、緊急時の対応方法に関する研修会を開催している。必要に応じてミーティング等を開き、職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として防災に関する諸規定を設けている。年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施しており、近隣の協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護を徹底しており、事業所内にも掲示している。また、日ごろからプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望等をお聞きしながら対応している。理解が困難な方には、家族とのコミュニケーションを図りながら対応方法を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を第一に考えて対応しているが、不十分なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもと美容院へ行ったり、付き添いの支援を行っている。利用者や家族の希望に応じて、理・美容院への支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の精神状態や身体状況に応じた声かけをしている。利用者の好き嫌いを把握したうえで楽しく調理しているが、食事づくりを好まれない方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量の記録を行っている。食事摂取量に制限のある方には、全職員で配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や状態に応じて、布パンツを使用している。紙パンツから布パンツに変えるなど、おむつ外しに取り組んでいる。排泄方法についてのマニュアルを作成し実施している。実際にトイレで排泄が可能になった方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む野菜を献立に取り入れている。また、朝食時には、ヨーグルト等の排泄を促すような食材を提供している。排泄チェックシートにより排便の間隔を把握して主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の希望にそって実施しており、曜日や時間に制限を設けていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠の妨げにならないよう、吸収力の高いパットを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりごとの服薬の目的や副作用、用法の理解に努め、個別に管理している。服薬の支援時には、必ず服薬時に薬袋と利用者の顔を確認している。また、他の職員に聞こえる声で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の精神状態や身体状況により、日記等をつけてもらったり、趣味活動や運動等を支援している。また、本人の能力に応じて清掃や調理、ゴミ捨てなどの役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出を行っている。また、天候により外で過ごされることもある。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者がお金を所持することの大切さを理解しているが、使用する機会をあまり設けていない。また、入居時に、お金の管理は本人の自己責任の範囲内であることを家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により電話をかける支援を行っている。また、毎月、担当職員から家族へ状況報告の手紙を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や机、配膳台等は手づくりのものを使用している。ホール内には、日めくりカレンダーを設置しており、利用者にも配慮している。採光にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、約6畳半の畳のスペースを確保しており、思い思いに過ごしてもらっている。冬場には、こたつを設置し気軽に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家電製品等を自由に持ち込んでもらっている。自宅で使用していた物を気軽に持ち込めるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存能力を生かせるように支援している。		